

皆様こんにちは、平成14年度初めて不登校が減少に転じ、皆様方の日頃の熱心な教育が少しずつ実を結びつつあり、本当によかったと感謝しております。しかし、不登校の子どもたちの中にはLD,ADHDの子ども達が相当数含まれています。そのため、今年度の研修会から2日伸ばして、我が国を代表する専門家の上野一彦教授(学芸大学副学長)と渥美義賢先生(国立特殊教育総合研究所 情緒障害教育研究部長 精神科医)をおまねきして、ご教授をお願いいたしました。

主催者として、改めて講師陣をもう一度見直しても、良くこれだけの我が国を代表するような先生方が来て頂けたと感謝しています。これも13年間熱心に受講された皆様の熱意の賜物だと大変感謝しております。この研修会は必ず明日の教育実践にお役に立てると自負しております。5日間という長い日程になりますが、よろしく願いいたします。

平成14年度第12回 教師&専門家のための不登校問題研修会 参加された皆様の声より

昨年アンケートの中からいくつかのご意見を掲載させていただきました。皆様にご回答いただいたアンケートは各講師の先生方へ複写しお送りさせて頂いております。

○『不登校問題等に対する教育行政の取組』

文部科学省初等中等教育局児童生徒課課長補佐
小林 万里子

- ☆ 文部科学省の人の話は聞く機会がありませんのでとても参考になった。(福島県教員)
- ☆ 不登校の原因はさまざまであるが、学校に登校しないという症状については共通している。まだ不登校を構造的につかむことができないということか。文部科学省の施策の優先順位、相互の関連性というものがはっきりしないので、全体像がつかみにくく、何かまだばらばらの施策という印象を受けた。(島根県教員)
- ☆ 今後国がどのように対応していくのか分かってよかった。じっくり吟味することも大切だが、人的なサポートや研修など具体的な活動が早い時期にもっとあると良いと思う。(沖縄県教員)
- ☆ 不登校の原因の分析など、文科省が見直しをしようとしていることを知ってよかった。現場では個別的な対応が常に求められているが、常にこれで良いのかと自問しながらの取り組みになっている。特に心因的な理由には、家庭の問題も小学校の場合、無視できない場合も多く、行政としての具体的な分析と対応を一段と詳しくしてほしいと考える。(東京都教員)

☆ 最新の情報、現状についてよくわかった。これらのデータは大変興味深い。(埼玉県教員)

○『子ども・若者の居場所』について

厚生労働省雇用均等・児童家庭局環境課児童健全育成・児童環境づくり専門官 鈴木 雄司

- ☆ 子どもにどんどん予算をつぎ込んでいただきたいと思います。今の時代、どこからどこまでを子どもとするのかも非常に難しいですが、各省庁の壁を可能な限り取り払ってもらって、社会のため、そして社会を構成する一人一人の国民のためにお仕事がんばってください。(埼玉県学生)
- ☆ 具体的な杉並の例があがっていてよかった。確かに中・高生の居場所は少ないと思う。若さをいかせる場所作りを意図的に企画できる社会でありたい。「地域にある施設や場所」のアンケート結果はなかなか面白かった。(愛知県教員)
- ☆ 実際に子どもとかかわった事例の報告に明日からの手がかりになります。(東京都教員)
- ☆ 「ゆう杉並」の存在をはじめて知った。地元でもどういう施設があるのか調べてみよう。また教委にも問い合わせしてみようと思う。もしなかったならば「ゆう杉並」のことを紹介しようと思う。本校(140名)でも10名位の不登校を抱えていて、町としても対応すべきだと思うから。(熊本県教員)
- ☆ 地域で青少年を受け入れ、居場所づくりをしている具体的取組の様子がよくわかった。(大分県教員)

○『不登校調査から見えてきたもの』

大阪市立大学教授 森田 洋司

- ☆ 森田先生のお話が一番興味深く、社会学の立

場からの視点がとても新鮮でした。また、先生のお人柄、優しさが感じられ、具体的なアドバイスをヒントとなるような言葉がありました。多くの先生方に聞いていただきたくなるような講演でした。(千葉県心の教室相談員)

- ☆ 「それぞれのニーズを探す」分かっていたことだが、日ごろ、1対40の関係が多く、徹底できないと反省した。もっと一人一人に目を配りたいと思った。(沖縄県教員)
- ☆ 先生の熱弁に思わず引き込まれた2時間でした。研究家独特の言葉が新鮮でもありました。やはり子どものニーズに応じて解決を構築していく必要があることを実感しました。(福岡県教員)
- ☆ 現在の親の立場としての学校への対応などまったく代弁していただいた思いがしました。言葉の上では、ゆっくりでいいといいながらも数日休んだ後は何枚ものプリントが渡される現状では回復のしようがないという気さえしてくるのです。(神奈川県教員)
- ☆ 関西弁を使われ、聴衆に話しかけられ、とてもパワフルでした。最後のボーリングの話が一番心に残りました。できないことに注目するのではなく、少しでもできたことに注目し、認めていくことが子どもの励ましになり、やる気を起こさせるのだと思いました。(石川県教員)

○シンポジウム『私にとって不登校とは』

コーディネーター

NHK「週刊子どもニュースキャスター」池上 彰
様々なタイプの不登校経験者4名

- ☆ 不登校といっても4人それぞれの違いがあり、まだまだ直接聞いてみたいことも出てきました。いかに、教師としてかかわっていくことが難しいかがわかり、身が引き締まる思いでした。(東京都教員)
- ☆ 不登校になったきっかけはいろいろだろうが、共通していることは、話せる大人がいなかったということだ。教師や親は子どもに話しかける努力をしなければならないと思う(東京都教員)
- ☆ 有意義なシンポジウムだった。不登校経験者の気持ちが強く伝わってきたが、やはり私は学校に行く学校生活を送るということは大切なことであると再認識した。(東京都教員)
- ☆ 個人的なことまで話して下さって心から感謝しています。また生の声に感動させられました。不登校生徒と長くかかわっているので全てが参考になりました。個々の事情や状況がそれぞれ違うことを改めて認識すると同時に、対応の難しさも改めて感じました。(東京都心の教室相談員)

- ☆ 自分の嫌だった体験を多くの人前で語るのは勇気のいることだと思います。ありがとうございました。不登校の症状を示し始めた時の教師の対応の大切さを痛感しました。不登校の症状を示している児童生徒の心の悩みを忘れることなく今後の対応を気をつけていきたいと思います。(愛知県教員)

○『学校における対応～ADHD・不登校』

国立特殊教育総合研究所情緒障害教育研究室長
花輪 敏男

- ☆ ユーモアを交えながら例もたくさん出してくださって、大変分かりやすかったです。自分のクラスにも不登校の生徒がいるのですが、2学期、共に、またがんばってみたいと思いました。マイナスに考えずに前向きにその子どもたちと生活していきたいと思いました。(埼玉県教員)
 - ☆ 自分が担任しているクラスの中でも、先生が話して下さったような症状の子どもがいます。4月より、起こらないようにしてきましたが、現段階で行き詰まっていたように感じていたので、明日からの保育の上で、かかわり方のポイントをつかめたように感じます。ありがとうございました。(愛知県保育士)
 - ☆ 理解しやすい説明で、今回のテーマのみならず生徒指導全般また職場での組織で仕事をしていく上で大変参考になりました。(長野県教員)
 - ☆ いろいろな場に応じて具体的な話が聞けて参考になった。分類することなく、教育することの大切さがよくわかった。不登校の親の会にかかわっているが、机上の論の多い学者が多く、不満に思っていたが、今回東京まで来た価値がありました。来年もぜひ聞きたい。(佐賀県教員)
 - ☆ 各都道府県にこのような状態の理解、チャートが浸透するとよい。また花輪先生がいてくださると良いなと思いました。少しずつでも実践に移していきたい。(滋賀県教員)
- #### ○『不登校から引きこもりへ』
- 北の丸クリニック所長
青少年健康センター常任理事 倉本 英彦
- ☆ 大人のひきこもりについてほとんど知らなかったのが大変有意義であった。またその豊富なデータ資料は貴重である。(佐賀県教員)
 - ☆ 「親が心底から子どもに向き合っていないからではないか」という言葉が印象的でした。私も「雑談療法」をやらねばと思いました。(福岡県相談員)
 - ☆ 講義ノートが大変分かりやすかった。不登校や引きこもりを改善するためには焦らないことが何より大切だということが分かった。「お

しゃべりをするのが防止策になる」…これはすぐにでも実践できそうですね。(茨城県教員)

- ☆ “マスコミに踊らされるな”との先生のお話でしたが、児童相談所の現場では確実に増えてきています。“児童虐待”がここ数年で急速に顕在化してくるのではないのでしょうか。在学中からの関係者のかかわり方ひとつで“ひきこもり”にならないで済むケースもたくさんあるように思います。(長崎県相談員)
- ☆ 不登校から家庭内暴力へと進む例をよく相談され対応に困っていましたが、お話を聞いて少し安心しました。不登校になることで情緒の安定をはかる、或いは家庭内暴力が退行現象と改めて理解できました。何もしないで待つのではなく適切な対応を早くすることの必要性も感じました。(広島県相談員)

○『ひきこもりの長期化・社会環境の変化と不安の質』

教育研究所所長・教育コンサルタント 牟田 武生

- ☆ 大変分かりやすい説明をしていただけて良かったです。著書を購入して具体的な場面には利用させていただこうと思います。年々社会の変化、学校、子どもたちと変わっていく中で、最新情報が得られるので毎年楽しみに参加しています。(埼玉県教員)
- ☆ 受容だけでなく、不登校していて失うものを時期を見計らって話すことは必要だと思っていたので、先生のお話は素直に入ってきました。不登校は誰にでも起こりうるものだけれど、真剣に丁寧にひとつひとつの問題に向き合えないと抜け出せないものだと感じました。もっと時間をかけてお話しを伺いたかったです。(神奈川県教員)
- ☆ 具体的なデータをもとに、年代との比較ですごく分かりやすかったです。全部のデータが出たときには是非、見たいと思います。ひきこもり、不登校の子どもたちだけではなく、不登校傾向の子どもにも当てはまるので活用できると思い、2学期から実行していこうかと考えています。(神奈川県教員)
- ☆ 時代の流れ、社会状況の変化、不登校の生徒への対応のあり方等で不登校の生徒の状況(不安状態)に変化が現れていることがよくわかった。(大分県教員)
- ☆ データをもとに非常に分かりやすく説明していただいたので、大変よくわかった。特に引きこもりが3年以上続くと社会復帰が難しく、再登校するのに「情緒的安定」と「社会性とその技術」が大切であるというのはとても参考になった。(大阪府教員)

○不登校心理とその予防、再登校への援助

国際学院埼玉短期大学教授 金子 保

- ☆ 具体的な例や言葉かけのしかたなど分かりやすく講義して下さったので、あっという間に時間が過ぎたように思います。ありがとうございました。(茨城県教員)
 - ☆ 再登校のための支援をこれだけ具体的に示していただいた方はいない。いつも現場は「ふどうしたら良い」で悩んでいる。大変参考になった。(東京都教員)
 - ☆ とっても理解しやすかった。すぐ現場で使えることが多かった。具体的な状況などしっかり話してくれて分かりやすかったです。来年もお願いします。(静岡県教員)
 - ☆ 積極的にかかわろうという姿勢が必要だと感じた。ただそのための入念な準備も重要だということもわかりました。(福岡県教員)
 - ☆ 楽しい解説、ジェスチャー交じりのユニークな講演でした。元気がでました。次々と笑いを誘う先生のお話の中に、先生の人柄が感じられ親しみを持ちました。(千葉県教員)
- ※ このほかにも大変多くのご意見、ご感想が寄せられました。本当にありがとうございます。会場がかわり、参加された先生方には多くのご不自由をおかけしたのではないかと考えております。ころからも皆様方のご意見を伺いながらよりよい研修会を作っていきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。(事務局)

不登校が減った？

少子化で子供の数は減少しているのに、小・中学生の不登校数は増加するばかりだったが、平成14年度の学校基本調査の速報値で初めて減少に転じた。前年度より約7500人少ない13万1千2百11人で、小中ともに減少した。児童生徒全体に占める割合も、前年度より0.05ポイント改善し、1.18%になった。

調査結果では、不登校の小学生は25,869人(前年度比2.4%減)、中学校は105,342人(同6.1%減)で、合計では前年度比5.4%の減少になった。平均すると、小学校は280人に1人。中学は37人に1人になる。

各新聞より

- 文部科学省は学校へのスクールカウンセ

ラー配置などの対策が一定の効果を上げたと分析しているものの、依然、91年度の2倍の水準で、「憂慮すべき状態」と受け止めている。(毎日新聞)

- **文部科学省**は「不登校の要因は複雑なので、減少した理由は特定できない」としているが、「さまざまな取り組みの成果が表れた」とみている。(読売新聞)
- **文科省**は「明確に1つだけの理由を挙げるのは難しい。カウンセラーを含め、関係者の取り組みの成果が表れてきたのではないか」とみる。(朝日新聞)

“社会の意識変化の流れ”

森田洋司／大阪市立大学大学院教授（社会学）
の話

不登校の児童生徒数が10万人を超えた97年度ごろから、社会の関心がより一層高くなり、みんなが「何とかしなければ」と意識するようになった。具体的なテクニックだけでなく、このような意識の変化や学校の姿勢が何よりも大事だ。5年ほどかかって、それが数字として表れたのだと思う。今後は、不登校でない子どもも含めて、社会的な自立へ向けて育むことや、個別のニーズに沿った細かい指導がどれだけできるかが重要だろう。

“らしさ失い、心配だ”

不登校の子どもたちが通うフリースクール「東京シューレ」の奥地主子理事長の話

学校から離脱する子どもの在り方や心の本質的には尊重されないまま、学校復帰という国家的政策が四半世紀の間、とられ続けてきた。

その結果、今回の調査で不登校の子ども数は減少したのだろうが、喜んで通学する子が増えたのではなく、自分らしく生きることがしにくくなっている表れだと感じる。喜べる数字でなく、むしろ心配だ。(以上、朝日新聞)

“本質的な対応見失わぬよう”

スクールカウンセラーの立場から、文科省の不登校対策作りに参加した伊藤美奈子・慶応大学助

教授の話

初めての減少は、これまでいろいろな分野の努力が積み重なったことだと思う。学校現場では、先生方を中心にさまざまな取り組みがなされつつある。

スクールカウンセラーには、子どもと話すことだけではなく、不登校の子どもとのかかわり方に悩む先生の、相談役としての役割も期待されている。先生とチームを組んで、子どもを理解する場を持ったり、子どもと親のケアを分担したりという対応が行なわれている。学校以外の専門機関につながり役割も重要である。

カウンセラーには、先生と情報を共有し、連携を強めていくことが望まれる。学校内での抱え込みは、決していい結果を生まない。

ただ、不登校の数を減らすことだけに目を奪われ、本質的な対応が見失われることがあってはならない。学校復帰が唯一絶対の目的とされ、不登校の子どもや保護者を過度に追いつめることがないように、慎重な対応が求められる。一人一人をしっかりと理解し、今どのようなかかわりが必要か、その子ごとに丁寧にみる必要がある。(読売新聞)

減少の原因はまだ特定出来ない。不登校の原因が複合化しているように、減少の理由も単一ではないのかもしれない。いずれにせよ7500人減少しても、まだ13万人の不登校の子ども達が居るという事実には変わりがない。気を緩めずに総合的対策ときめの細かい対応が望まれる。

第12回 教師&専門家のための不登校問題研修会 決算報書

収入の部

①受講料（有料6492名）	9,824,000円
②預金利息	68円
④平成12年度決算終了後活動費	100,000円
合計	9,924,068円

支出の部

①ホール借料（機材借料、技術者料含む）	420,600円
②講師お礼 (100,000×4、60,000×1、120,000×1、10,000×4)	620,000円

③講師交通費 (35,000×1、7,000×1、5,000円×1、3,000×3)	56,000円
④スタッフ用役費及び交通費	1,260,000円
⑤ボランティア交通費	317,329円
⑥食事代(講師・ボランティア昼食、打ち合せ費用含む)	167,208円
⑦郵送費	1,570,138円
⑧印刷費	
内訳	
パンフレット	562,500円
封筒	212,700円
講義ノート	640,000円
他印刷物(受講証他)	216,300円
ラベル出力・名簿管理	205,000円
消費税	91,905円
⑨雑費(源泉預かり、事務用品費を含む)	141,099円
⑩事務諸経費(電話代等)	187,500円
⑪支払い手数料	32,270円
⑫第12回研修会参加者への報告及び研究会通信発送費	200,000円
⑬決算終了後の活動費(交通費・電話代等)	100,000円
⑭返金(キャンセルのため)	68,000円
⑮平成13年度不足分返済	803,752円
合計	7,872,301円
以上の通り相違ありません。	
収入－支出＝2,051,767円は次年度準備金とする。	
全参加者数	649名
内訳	
一般参加者	646名
招待者	3名
一般参加者内訳	
小学校教諭	229名
中学校教諭	170名
高校教諭	108名
(中高併設学校については中学で登録)	
スクールカウンセラー(心の教室相談員含む)	6名
養護学校教諭	25名
教育委員会(教育センター・適応指導教室・相談室・教育研究所含む)	36名
児童相談所	3名
保育園	1名
盲学校	1名
その他(他の教育機関・施設などを含む)	57名

学生

10名

第13回 教師&専門家のための不登校問題研修会
データあれこれ(8月21日現在)

1. 学校種別参加状況

小学校	346
中学校	233
高等学校	143
幼稚園	134
保育園	96
養護学校	37
教育委員会	30
学生	17
教育センター	8
適応指導教室	8
児童相談所	3
スクールカウンセラー	3

2. 都道府県別参加者数(申し込み数)

秋田	2	岐阜	11	愛媛	3
青森	4	三重	3	福岡	14
岩手	3	滋賀	9	佐賀	1
北海道	7	大阪	33	長崎	2
東京	189	京都	9	熊本	3
神奈川	159	奈良	5	大分	2
千葉	87	和歌山	7	宮崎	4
茨城	56	兵庫	6	鹿児島	3
栃木	42	鳥取	7	沖縄	5
埼玉	73	岡山	28	福井	6
群馬	36	広島	13	石川	7
長野	9	山口	3	富山	2
山梨	5	香川	3	新潟	28
静岡	60	徳島	1	福島	8
愛知	87	高知	12	宮城	11
山形	6	島根	2		

2. 年度別参加者数

	第10回	第11回	第12回	第13回
参加数	453名	439名	649名	1153名

(第13回の参加者数は8月21日現在)

★ ☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆

新刊のご紹介

今年の講師の先生方関連の新刊です。図書コーナーで扱っています。

☆ 不登校の予防と再登校への支援

金子 保 2,000 円 田研出版

☆ 幼児の気になる行動解決支援の方法

金子 保 2,000 円 田研出版

☆ 不登校—その後—不登校経験者が語る心理

森田 洋司 2,600 円 教育開発研究所

☆ 思春期のメンタルヘルス

倉本 英彦 2,500 円 北大路書房

☆ 04 年度版総ガイド 高校新入学・転編入

教育研究所編集協力 ¥1,000 特価)

☆ 04 年度版 中学卒・高校中退からの進学総ガイド

ウチヤマ書店 2,400 円

☆ 僕達が学校に行かなかった理由

池上彰述/牟田武生監修 2,000 円 ウチヤマ書店

※ 不登校問題研修会恒例の体験者のシンポジウムが本になりました。

☆ ひきこもり／不登校の処方箋

-心のカギを開くヒント-増補版

牟田 武生 2,000 円 ウチヤマ書店

☆ 社会的ひきこもりへの援助

概念・実態・対応についての実証的研究

倉本英彦／編著 1,600 円 ほんの森

編集後記☆☆☆☆☆

◇ この研修会が始まった平成 3 年当時、不登校は「どの子にも起こりうる」との認識はありませんでした。いくら私たちが不登校の子ども達とかかわり、彼らの心の回復をはかっても、社会参加への道は大変困難なものでした。学校復帰をしたくても全日制高校の受験などまったくの論外で、受験の機会すらありませんでした。ある時、とにかく願書を出してみようと、ある私立高校へ出願したところ、その学校から出願を取り下げてほしいと電話が入ったことを記憶しています。そういう電話

をもらえるのは親切な学校とさえ言えた時代です。

そのような状況の中、何とか全国の学校の先生に不登校の現状を理解してもらえたらと、はじめたのがこの研修会でした。

夏休みの空いた時間を利用して、ボランティア事業としてはじめました。インターネットも無い時代、宣伝の方法も何もわからず、経費ばかりがかさみ毎年赤字の連続でした。平成 3 年の第一回に参加していただいた先生は 700 名の会場で 200 名を下回ったと記憶しています。

それから 12 年、今年参加していただいている先生の中に、平成 3 年のニッショーホールを覚えている先生はいらっしゃるのでしょうか。名簿管理のソフトが代わり、その当時の参加者リストはもうありません。今では調べるすべも無いのですが…。あの冷房ばかりが効きすぎるホールでの研修を覚えている先生がもしいらしたら、アンケートにでも一言お声を聞かせていただけたらと思います。(西村)

◆ 研修会のお手伝いを始めて、もう 6,7 年になるのだろうか。今年は初めて研修日程を 3 日間から 5 日間にと、規模を広げる形で開催することになった。そして、今回はこの研修会参加人数が昨年度の倍近くなった。これだけ反響をいただけることは大変嬉しいことではあるけれども、このことは予想以上に結構大変なことでもあった。なんとか、開催まではこぎつけたものの、また、開催期間中、全力を尽くすつもりではあるものの、大きなトラブルがあるのでと、不安が半分である。参加してくださった先生方が実り多く帰られるよう、そして、なんとか、無事に研修会の 5 日間を乗り切れるよう、祈るばかりである。(田村)